



Peace Letter CHOFU 2017

ピース・レター ちようふ

みんなで考えよう 平和

調布市非核平和都市宣言

世界の恒久平和は人類共通の願望である。

核兵器保有国間で核軍拡競争が激化している今日、核戦争を回避し、
原水爆の恐れのない世界を確立することは、緊急かつ重大な課題である。

わが国は、戦争による世界唯一の核被爆国として、
また平和憲法^{せいしん}の精神からも核兵器の廃絶と軍備縮小の推進に
積極的な役割を果たさなければならない。

したがってわが調布市は、非核三原則の完全実施を願ひ、
厳粛に非核平和都市を宣言する。

昭和58年9月27日

調布市議会

調布市国際交流平和都市宣言

世界にはたくさんの国があり、その国にはそれぞれに人が生きている
赤ちゃんもいればお年寄りもいる。言葉や文化の違いはあっても
みんな仲良く生きたいと思う

調布の人も、そうでない人も、日本の人も、そうでない人も
いま、私たちは世界にとびたつ、いま、私たちは世界の人を迎える

地球には、たくさんの人が生きている。みんな平和に生きたいと思う
きっとそうなる、きっとできると、私たちは宣言する。

平成2年3月23日

調布市

原爆展

8/2(水)～8/9(水) 午前10時～午後6時 ※8/9(水)のみ午前10時～午後1時

原爆の悲惨さを伝えるパネルや丸木美術館の「原爆の図」の一部(複製パネル)をお借りして展示します。また、被爆体験者による講話・ガイドを行います。夏休みの平和学習にぜひご来場ください。

【会場】文化会館たづくり2階南ギャラリー
【内容】講話/午後1時30分～2時頃 ガイド/講話終了後～午後4時
(8/9(水)のみ、講話は午前11時～11時30分、ガイドは講話終了後～午後1時)

【語り部】河野良彦、田中健二、富樫和子、
ほげやまひさこ、まるもとのりお、よねいまくにひこ、
鈴木久子、丸本規雄、米今国彦

【費用】無料 **【協力】**調布市原爆被害者の会(調友会)

【問合せ】文化振興課 481-7139

※講話・ガイドは、実施できない場合があります。
詳しくは市のホームページをご覧ください。



原爆の図丸木美術館「原爆の図」第2部(火)

防災行政無線 世界平和を願う黙とうにご協力を～

- 1 8/6(日) 午前8時15分
- 2 8/9(水) 午前11時2分
- 3 8/15(水) 正午

市では、今年も防災行政無線で「黙とう」を呼びかけます。戦争で亡くなられた多くの方々のご冥福と、世界の恒久平和の実現を祈念するためにご協力をお願いします。

※緊急災害発生時等には、中止する場合があります。ご了承ください。

平和フェスティバル・講演とヴァイオリンコンサート

「少女時代の日記をもとに70年後の今、伝えたい戦争と平和への思い」

8/5(土) 午後2時～4時 (ハンドケアは午後1時30分から)

見る人にアンネフランクを思わせる古い日記帳。それを書いた「私」が戦中戦後に何を感じ、どんな生活をしてたのかを語ります。市立第五中学校ボランティア部による舞踊やハンドケアも。講演後はベルリン在住演奏家による弦楽四重奏をお楽しみください。

【講師】半田たつ子(「過ぎし日々に向き合う」著者)
【出演】飯吉真子(ヴァイオリン)ほか
【定員】申し込み順 80人 **【費用】**無料
【申込/問合せ】西部公民館 484-2531



半田たつ子

昭和19年からの日記

飯吉真子

夏休み平和バス見学会

「親子で学ぶ平和～埼玉ピースミュージアムと吉見百穴を見学しよう」

8/23(水) 午前8時30分～午後4時(予定)

戦争中の小学生はどんな生活を送っていたのでしょうか。ピースミュージアムでは展示のほかに戦争中の小学校の授業の疑似体験やアニメーション映画などからも戦争や平和を学びます。また、地下軍需工場跡でもある史跡「吉見百穴」も見学します。

【集合】午前8時30分(市役所西側道路) **【交通】**市のバス

【内容】埼玉ピースミュージアムと国指定史跡吉見百穴の見学

【対象】小・中学生と保護者 **【定員】**22人

【費用】中学生以上600円、小学生500円
(高速通行料、観覧料)

【持物】昼食、飲み物

【申込/問合せ】7/21(金)
午前9時から受け付け
西部公民館 484-2531



吉見百穴

平和祈念図書事業

平和祈念「図書展」

図書館では毎年、戦争体験記や戦争に関する図書の展示と貸出をしています。

【日時】7/26(水)～9/24(日) 午前9時～午後8時30分

※休館日 8/28(月)、29(火)

【会場】中央図書館4階正面展示

【問合せ】中央図書館 電話 441-6181



昨年の様子

平和祈念「読書会」

①公開緑陰読書会 ②公開納涼読書会

【日時】8/10(土) 午前10時～正午 **【日時】**8/31(土) 午後6時30分～8時

【内容】「帰郷」(浅田次郎著) **【内容】**「祭りの場」(林京子著)

①②共に

【会場】文化会館たづくり10階1001学習室 **【費用】**無料

【講師】青木笙子(社会教育指導員) **【定員】**申し込み順 45人

【申込/問合せ】図書館読書推進室、

アカデミー愛とびあ(文化会館たづくり10階)
441-6328(受付時間・午前9時～午後5時)

第30回調布平和のつどい

8/11(金)・(祝) 午前10時～正午、午後1時～4時

調布市非核平和都市宣言を記念する市民の手づくりによる平和イベントです。

【会場】調布駅前広場、文化会館たづくり12階大会議場

【内容】調布駅前広場【午前10時～正午】原爆パネル展示等

たづくり12階大会議場【午前10時～正午】フクシマを訪ねて

DVD・調友会被爆者DVD上映、展示(調友会歴史)等

【午後1時～4時】調布市非核平和都市宣言・市長・市議会議長

メッセージ朗読、合唱(群青、HEIWAの鐘、折鶴)、被爆者語り等

【費用】協力金500円 **【主催】**平和のつどい実行委員会

【問合せ】090-3507-9008(鈴木)

戦争体験映像記録

戦争の悲惨さ、平和の尊さを後世に語り継ぐため、戦争を体験された市民の方々の話を映像で記録し、保存する事業を行っています。昨年は市内在住の3人の方にお話を伺いました。映像は中央図書館でDVDの貸出を行っているほか、市ホームページでも視聴ができます。



最上孝子さん / 終戦当時31歳
「食べ物に困った疎開先の暮らし」(12分36秒)

戦時中、東京から遠く離れた兵庫県へ、子どもたちと一緒に疎開した最上孝子さん。食べ物がとても少ないなか、カエルや、雑草を入れた雑炊などを食べて暮らしました。子どもたちと力を合わせ、毎日を精一杯生きてきた当時のことをお話いただきます。



中村八郎さん / 終戦当時17歳
「正田飛行機製作所での日々」(28分29秒)

戦争の時は調布に住み、正田飛行機製作所で飛行機のエンジンや部品を作っていた中村八郎さん。ブーゲンビル島で戦病死したお兄さんの話、機銃掃射を受けたこと、墜落するB-29を見たこと、東京大空襲の日のことなどもあわせてお話いただきます。



加藤威郎さん / 終戦当時9歳
「妹からの手紙」(23分15秒)

戦時中、両親や姉、妹と離れて千葉に疎開した加藤威郎さん。疎開先でのお話をはじめ、二人の妹から届いた手紙、そしてその後にあった東京大空襲のことを中心に、戦後のことも含めてお話いただきます。

調布市のホームページにある「動画ライブラリー 調布市戦争体験映像記録」で戦争を体験された方々の話が聞けます。

右のQRコードを読み取って、アクセスしてください。



資料が伝える市民の戦争体験

郷土博物館では、市民の戦争体験を伝える資料を大切に保存し、体験とともに展示しています。戦後70年余りの時間が経過し、戦争を体験した「語り部」の世代が少なくなっていく中で、体験を伝えるモノの重要性が増えています。博物館の展示は、戦争体験のある世代にとっては、自分の記憶がよみがえる場であり、戦争を知らない世代にとっては、戦争の記憶を継承する場となります。市民の戦争体験を次の世代に伝えるために、博物館は、世代を越えてモノと人をつなげる役割を果たしています。

水木しげるさんの戦争体験

調布市名誉市民の水木しげるさんは、日本を代表する漫画家として半世紀以上にわたって活躍されました。「ゲゲゲの鬼太郎」をはじめ「悪魔くん」「河童の三平」など、目には見えない存在を独特の感性で描きました。また、太平洋戦争で左腕を失うという奇烈な戦争体験を作品にし、戦死した友への慰霊と戦争の恐ろしさや悲惨さを漫画という形で発表した代表作「総員玉碎せよ!」は、未来に残したい作品として平成21(2009)年にフランスのアンブレム国際漫画祭で「遺産賞」を受賞しました。調布市は、水木さんの戦争体験と平和への思いを伝えるために展示等の事業を行ってまいります。

調布市国際交流平和基金

調布市では、世界の様々な文化への理解を深め、多文化共生の地域社会づくりを推進するための国際交流事業並びに恒久平和の維持及び発展のための平和事業を、円滑かつ効率的に推進する資金に充てるため、調布市国際交流平和基金を設置しています。

【寄附のお願い】調布市の国際交流事業や平和事業のために、寄附のご協力を頂ける場合は、調布市文化振興課(481-7139)にご連絡ください。

調布と戦争

大正2年(1913)の京王電気軌道(現在の京王電鉄)の開通は、江戸時代以来の伝統的な生業や暮らしが続いていた調布市域の近代化・郊外化を進める牽引役となりました。

東京の市街地と鉄道で結ばれたことにより、交通の便がよく、豊富な労働力を擁する調布市域には、大正から昭和初期にかけて、丸源製鋸所、和光堂、日本針布株式会社、東洋精鋼株式会社などの工場が新設、移転しました。昭和14年(1939)には、陸軍造兵廠の注文に応じて小銃を製作する東京重機製造工業組合の工場も建設されました。

昭和16年(1941)4月には、東京府下の北多摩郡調布町・三鷹町・多磨村にわたる地域に、羽田に次ぐ東京の空の玄関として東京調布飛行場が完成しましたが、同年8月に東京府と陸軍の協定により、首都防衛のための軍用飛行場となりました。

昭和16年7月、防空専任の陸軍航空部隊が新編され、東部軍司令官の指揮下の第17飛行団の司令部が調布に置かれました。調布飛行場は、東部軍の根拠飛行場と位置付けられ、東部軍作戦室に集められた情報



神代村の警防団第七分団

日本針布の女子青年隊の訓練

をもとに、浜松以東の東日本の戦闘指揮が、調布作戦室を通じて行われました。同年9月、陸軍の飛行第144戦隊(11月、第244戦隊に改称)が調布に移駐し、周辺に配置された高射砲連隊とともに、京浜地区の要地及び政・戦略中枢の防衛に当たりました。

昭和19年(1944)11月、米軍のB-29爆撃機によって東京が空襲されると、防空任務達成のため、敵機に体当たり攻撃する特別攻撃隊が調布飛行場で編成されました。一方では、本土防衛の戦力を確保するために、戦闘機を空襲から守るための掩体壕が調布飛行場に作られました。現在、飛行場に隣接する都立武蔵野の森公園内に掩体壕が保存され、当時を語る存在となっています。

調布市平和祈念事業 映画上映会

上映時間
2時間2分

激動の昭和初期。異国情緒あふれる神戸を舞台に、「戦争」という激流の渦に巻き込まれながらも、勇気、信念、愛情をもって生き抜いた家族の物語。

©2013「少年H」製作委員会
2013年公開



原作・妹尾河童 + 監督・降旗康男 + 脚本・古沢良太

少年H

2017年8月5日(土) *開場は
上映30分前

上映：10：30(1回目) / 14：00(2回目) / 18：30(3回目)

場所：調布市文化会館たづくり2階
くすのきホール(定員500名)

◆予定・2回日上映後
降旗康男監督の講演

チケット：小中高生 300円 (前売り・当日共)
一般 500円 (当日 700円)

発売場所：グリーンホールチケットサービス
文化会館たづくり1F インフォメーション
(※上記発売場所での電話予約はできません。窓口販売のみです)



キャスト：水谷豊 伊藤蘭 ・吉岡竜輝 花田優里音
小栗旬 早乙女太一 原田泰造 佐々木蔵之介 國村隼 岸部一徳

●主催：「少年H」上映実行委員会 ●共催：調布市 ●後援：調布市教育委員会、(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団、
調布市社会福祉協議会、生涯学習団体 アカデミー愛とびあ ●問い合わせ先 庄司 090-9011-6775